

2月1日時点の就職意識調査

就職活動本番を目前に控えた2月1日時点の学生の準備状況を、就職意識、インターンシップ、就職活動などの項目を中心に確認した。前年調査との比較や1月に実施した前回調査からの変化に着目して分析したい。

1. 2月1日時点での志望業界

- 志望業界が「明確に決まっている」26.9%。1月調査より2.7ポイント増。
「決まっていない」は16.2%
- 志望業界1位「銀行」、2位「水産・食品」、3位「医薬品・医療関連・化粧品」。
1月調査と変わらず。

2. インターンシップの応募・参加状況

- インターンシップ応募者は83.8%。全体の8割強が応募
- インターンシップ参加者は73.7%と7割強が参加
- 参加したプログラムは、「1~4日間」は「12月」「1月」、
「5日間以上」は「8月」「9月」が多い

3. Uターン就職の希望状況

- Uターン希望者は3割弱に減少
- Uターン就職したい理由、トップは「出身地・地元が好き」

4. 現時点での内定状況

- 「内定を得ている」2.2%、「選考中の企業がある」18.0%
- 「内定社数(平均)」1.6社、「選考企業社数(平均)」1.8社

5. 英語力の必要性への考え

- 将来仕事をする上で「英語力必要」94.4%。前年より微増

6. 「自分が成長できそう」と感じる企業

- 「よき手本となる上司や、よきライバルとなる同僚がいる」70.3%、
「明確な目標を長期的・短期的に提示される」63.1%、「常に新しい取り組みに果敢に
挑戦する」48.9%など

《調査概要》

調査対象：2016年3月卒業予定の全国の大学3年生（理系は大学院修士課程1年生含む）
 回答数：1,504人（文系男子460人、文系女子451人、理系男子393人、理系女子200人）
 調査方法：インターネット調査法
 調査期間：2015年2月1日~2月5日
 サンプルング：日経就職ナビ2016就職活動モニター

◆本資料に関するお問い合わせ先：03-4316-5505/株式会社ディスコ キャリアリサーチ

1. 現時点での志望業界

2 月 1 日時点での志望業界の決定状況は、「なんとなく決まっている」という学生が最も多く、56.9%。「明確に決まっている」学生は 1 月調査 (24.2%) より 2.7 ポイント増の 26.9%で、就職活動本番を 1 カ月後に控え、準備が着実に進んでいるようだ。

志望業界を 40 業界の中から 5 つまで選んでもらったところ、「銀行」が 20.6%で最も多く、次いで、「水産・食品」20.1%、「医薬品・医療関連・化粧品」17.5%と続く。上位 3 業界の顔ぶれは 1 月調査から特に変動がなかった。1 月調査時点で 9 位だった「調査・コンサルタント」は、7 つ順位を下げた。インターンシップ等で接点を持つことで、ハードルの高さを感じたのかもしれない。

文系女子は、1 月調査で「マスコミ」が首位だったが、今回の調査では「銀行」が首位になった。他は変動がなく、文系は男女ともに「銀行」が首位。理系は、男子が「電子・電機」、女子は「医薬品・医療関連・化粧品」が最も多かった。

2 月時点での志望業界の決定状況

	全体	(1月調査)	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
明確に決まっている	26.9	24.2	24.3	20.0	34.4	34.0
なんとなく決まっている	56.9	55.9	55.4	59.6	55.7	56.5
決まっていない	16.2	19.9	20.2	20.4	9.9	9.5

2 月時点での志望業界 (上位 20 業界)

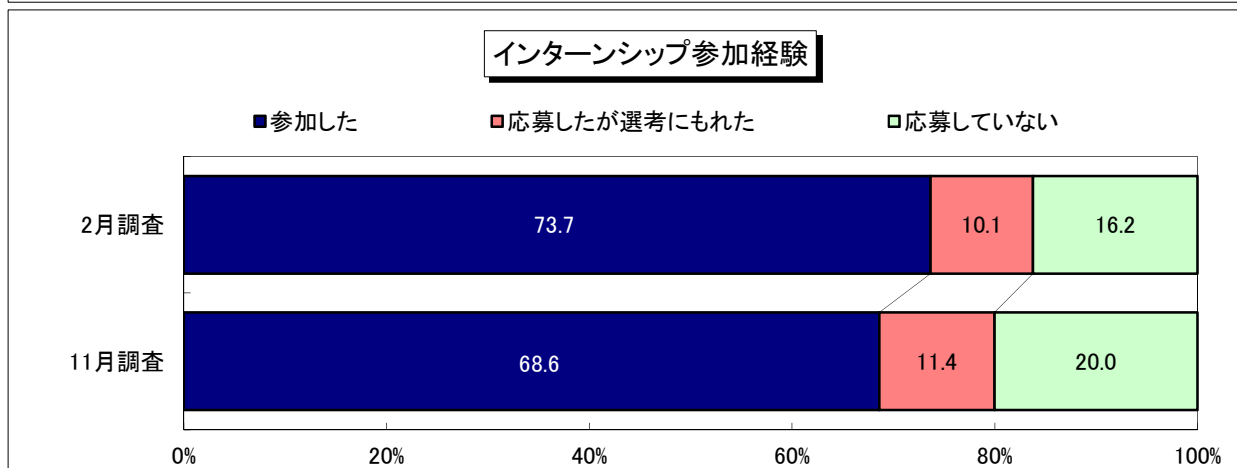
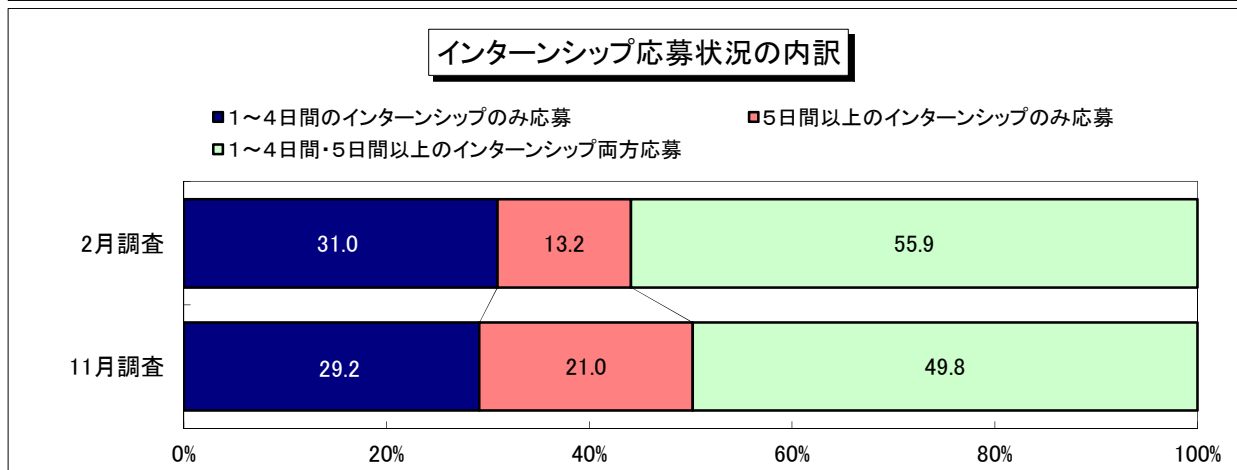
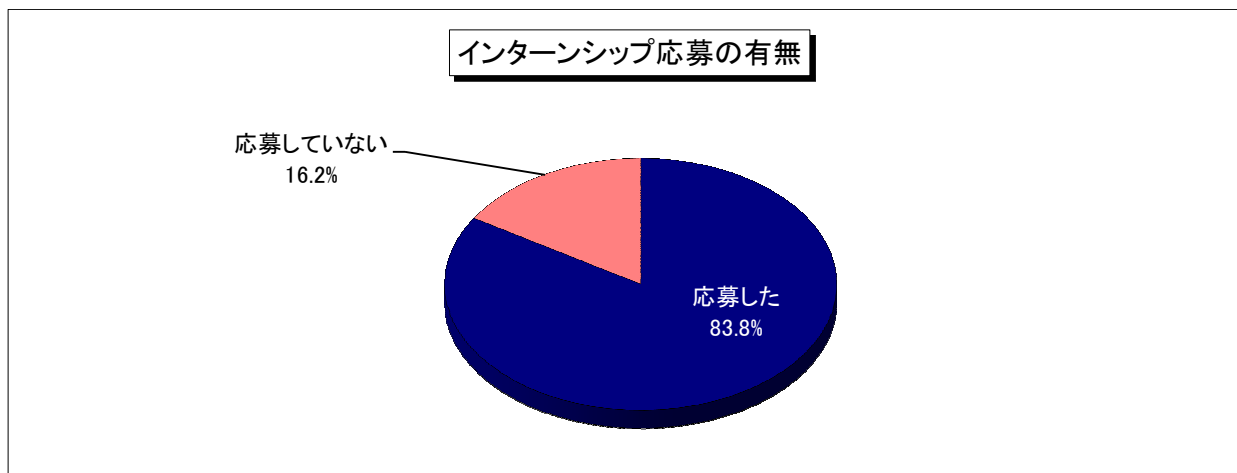
全 体		文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
1	銀行 ① 20.6	銀行 34.3	銀行 26.7	電子・電機 30.8	医薬品・医療関連・化粧品 43.1
2	水産・食品 ② 20.1	商社 (総合) 20.4	マスコミ 24.8	機械・プラントエンジニアリング 25.4	水産・食品 40.9
3	医薬品・医療関連・化粧品 ③ 17.5	保険 18.5	商社 (総合) 22.3	自動車・輸送用機器 24.6	素材・化学 31.5
4	素材・化学 ④ 15.9	運輸・倉庫 18.3	水産・食品 17.5	素材・化学 22.6	官公庁・団体 19.3
5	官公庁・団体 ⑤ 15.9	建設・住宅・不動産 18.3	官公庁・団体 16.2	エネルギー 20.6	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 15.5
6	商社 (総合) ⑥ 15.7	商社 (専門) 15.8	運輸・倉庫 15.3	医薬品・医療関連・化粧品 20.1	精密機器・医療用機器 14.9
7	電子・電機 ⑧ 14.4	調査・コンサルタント 15.8	商社 (専門) 15.0	精密機器・医療用機器 19.5	情報・インターネットサービス 13.8
8	マスコミ ⑦ 14.0	エネルギー 15.5	ホテル・旅行 14.2	水産・食品 18.6	電子・電機 12.7
9	建設・住宅・不動産 13.6	官公庁・団体 15.3	保険 14.2	情報・インターネットサービス 17.8	ゴム・ガラス・セメント・セラミックス 10.5
10	エネルギー 13.5	マスコミ 14.4	医薬品・医療関連・化粧品 13.6	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 17.2	建設・住宅・不動産 10.5
11	運輸・倉庫 13.5	水産・食品 13.9	建設・住宅・不動産 12.0	官公庁・団体 14.7	農業・林業・鉱業 10.5
12	情報・インターネットサービス ⑨ 13.0	自動車・輸送用機器 12.0	印刷・パッケージ 9.7	通信関連 12.4	マスコミ 9.9
13	自動車・輸送用機器 12.8	情報・インターネットサービス 12.0	OA 機器・家具・スポーツ・玩具他 9.2	建設・住宅・不動産 11.9	エネルギー 9.4
14	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 11.5	素材・化学 10.6	その他サービス 9.2	鉄鋼・非鉄・金属 11.9	調査・コンサルタント 7.7
15	保険 11.4	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 10.1	情報・インターネットサービス 8.9	運輸・倉庫 11.0	OA 機器・家具・スポーツ・玩具他 7.2
16	商社 (専門) 11.1	信用金庫・労働金庫・信用組合 9.5	信用金庫・労働金庫・信用組合 8.9	調査・コンサルタント 10.5	印刷・パッケージ 7.2
17	調査・コンサルタント ⑩ 11.1	証券・投信・投資顧問 9.0	教育 8.6	ゴム・ガラス・セメント・セラミックス 9.9	商社 (総合) 7.2
18	機械・プラントエンジニアリング 10.8	ホテル・旅行 8.2	調査・コンサルタント 8.6	商社 (総合) 8.5	自動車・輸送用機器 6.6
19	精密機器・医療用機器 10.3	電子・電機 8.2	エンターテインメント 8.4	銀行 7.6	商社 (専門) 6.6
20	通信関連 7.5	教育 7.1	人材紹介・人材派遣 7.5	保険 5.9	通信関連 6.6
		鉄鋼・非鉄・金属 7.1			

※○の中の数字は2015年1月同調査の全体順位10位以内

2. インターンシップの応募・参加状況

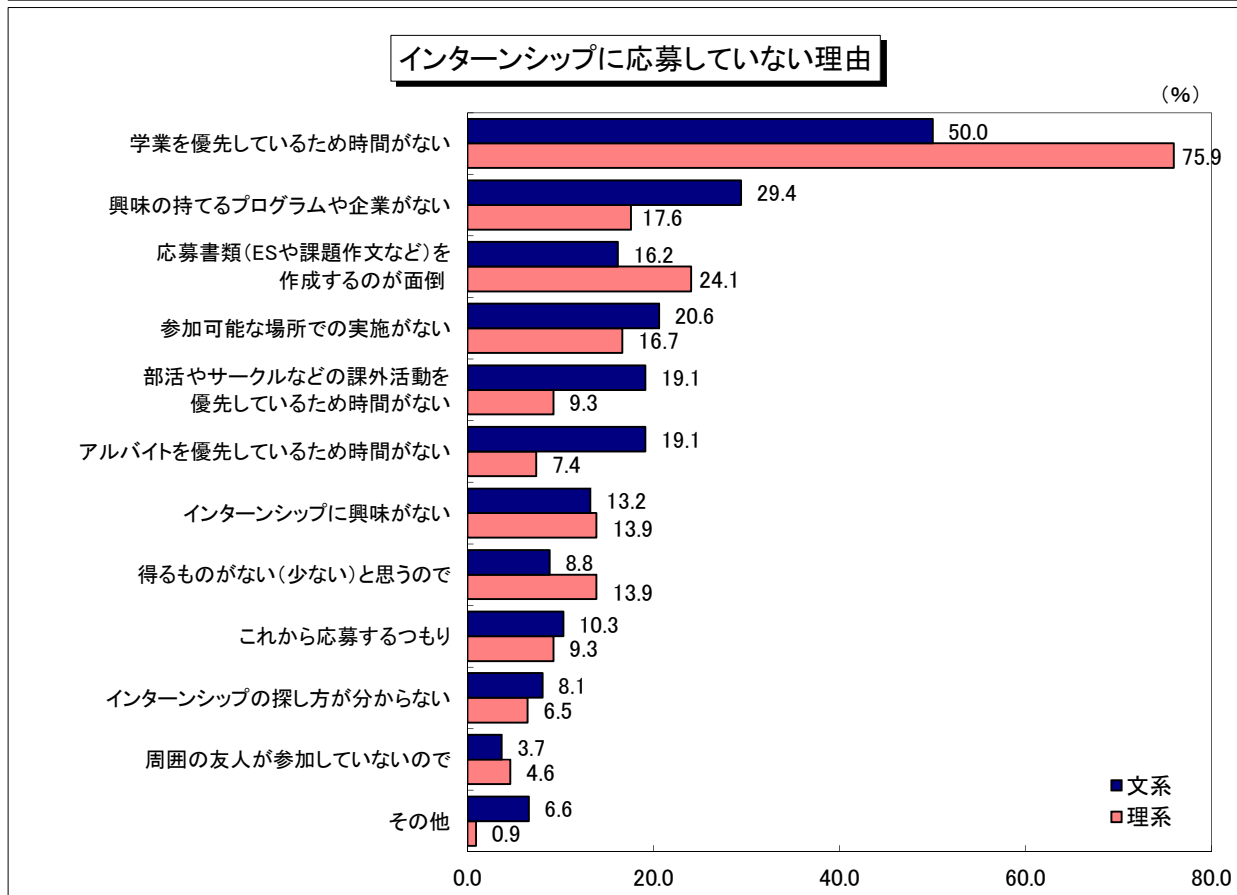
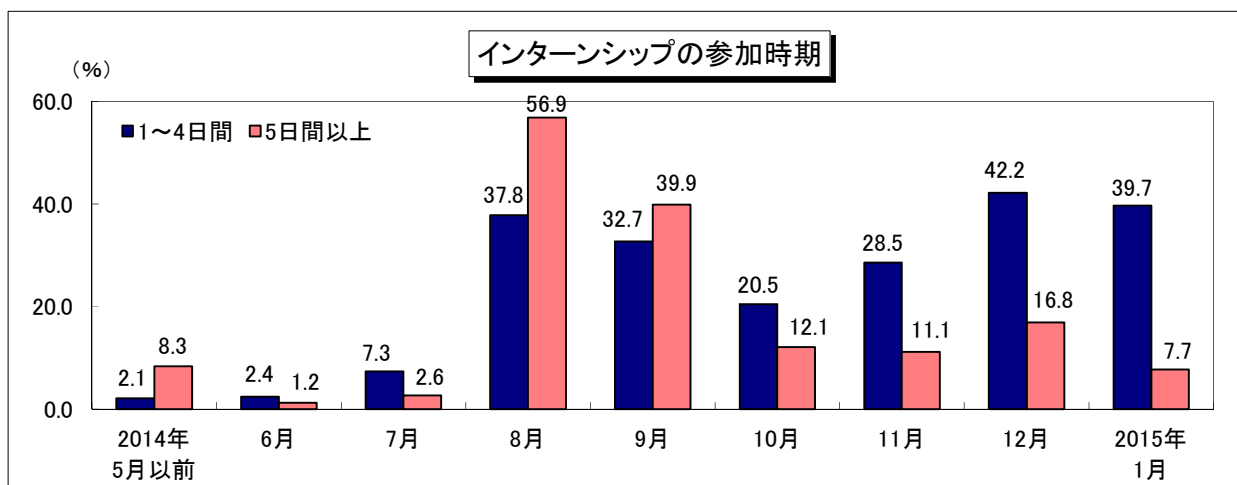
就職活動準備期間中のインターンシップについて、応募状況や参加したプログラムなどを尋ねた。インターンシップに「応募した」と回答したのは、全体の 83.8% で 8 割強。「1~4 日間のみ応募」が 31.0%、「5 日間以上のみ応募」が 13.2%。「1~4 日間」と「5 日間以上」の両方のプログラムに応募したのは 55.9% だった。前回インターンシップについて尋ねた 11 月調査 (49.8%) と比較すると両方のプログラムへの応募者は 6.1 ポイント増えた。11 月調査で「5 日間以上のみ」だった応募者が、その後「1~4 日間」のプログラムにも応募したためだろう。

また、実際にインターンシップに参加したのは、73.7% と 7 割強。11 月調査 (68.6%) から 4.9 ポイント上昇した。



続いて、インターンシップの参加時期について確認したい。「1~4 日間」のプログラムへの参加時期は、「12 月」(42.2%)、「1 月」(39.7%) の順に多く、「5 日間以上」のプログラムは最も高いのは「8 月」(56.9%)、次いで「9 月」(39.9%) だった。

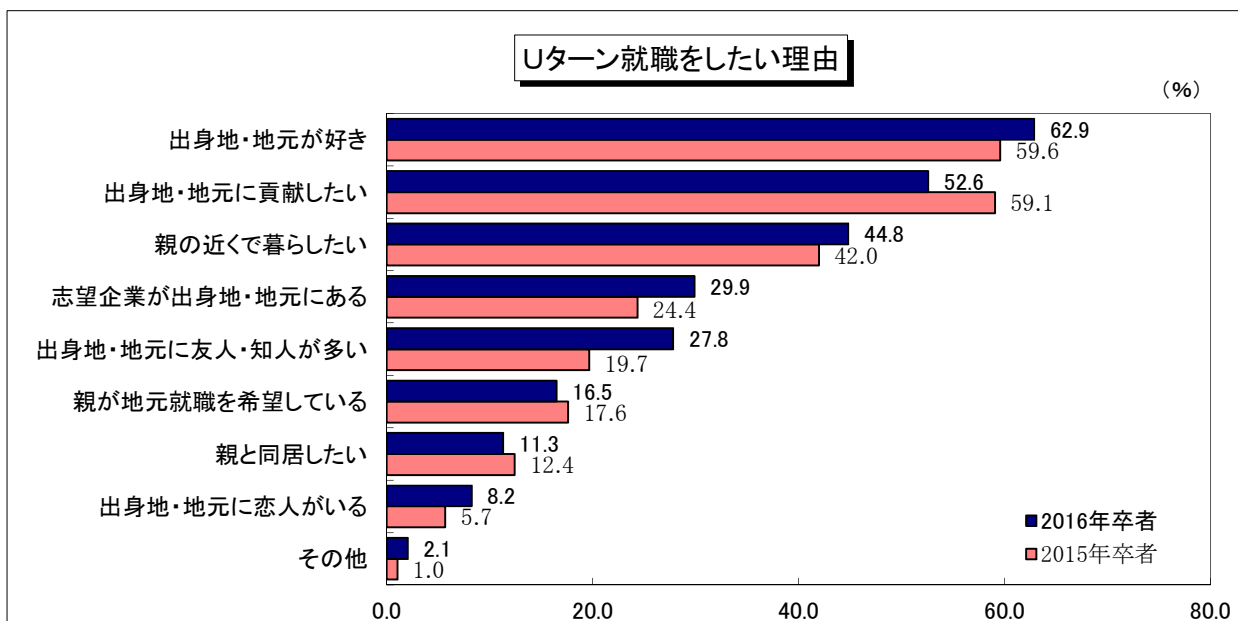
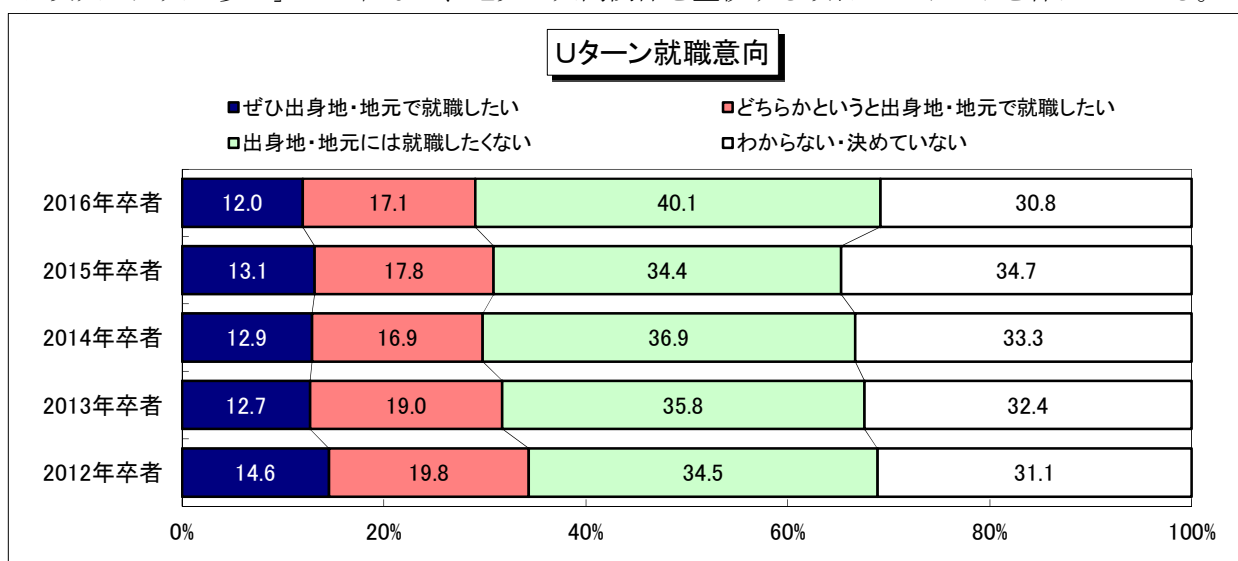
一方、インターンシップに応募しなかった学生には、その理由を尋ねた。文理ともに最も多かったのは「学業を優先しているため時間がない」だが、とりわけ理系 (75.9%) で圧倒的に多く、文系 (50.0%) に比べ 25.9 ポイントも高かった。文系でポイントの高さが目立つのは、「興味の持てるプログラムや企業がない」「アルバイトを優先しているため時間がない」「部活やサークルなどの課外活動を優先しているため時間がない」など。



3. Uターン就職の希望状況

出身地・地元を離れて進学している学生を対象に、Uターン就職の希望状況を尋ねた。「ぜひ出身地・地元で就職したい」12.0%と「どちらかというと出身地・地元で就職したい」17.1%を合計すると29.1%で、Uターン就職希望者は3割を切った。一方、「出身地・地元には就職したくない」は40.1%で前年調査(34.4%)より5.7ポイント高くなった。

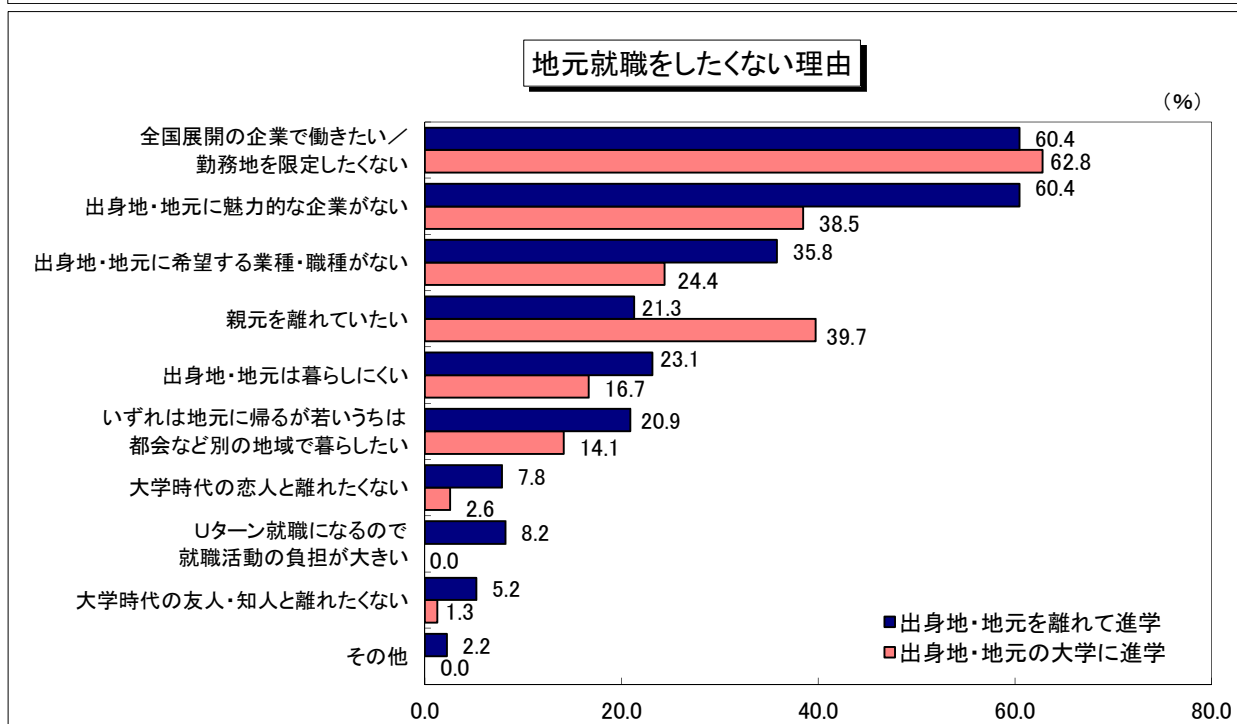
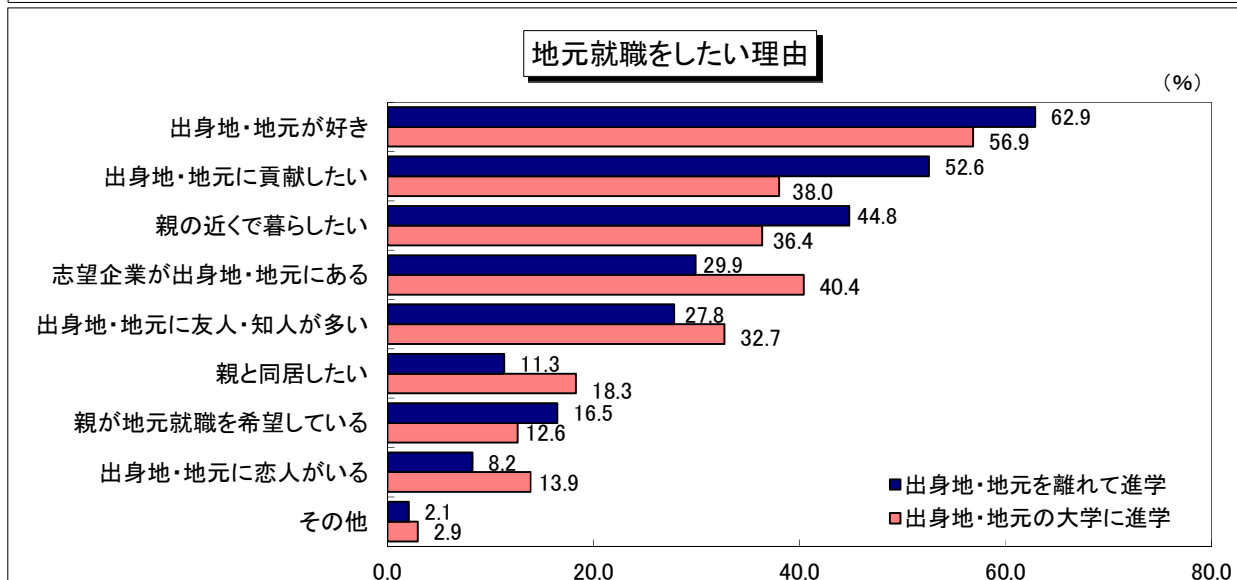
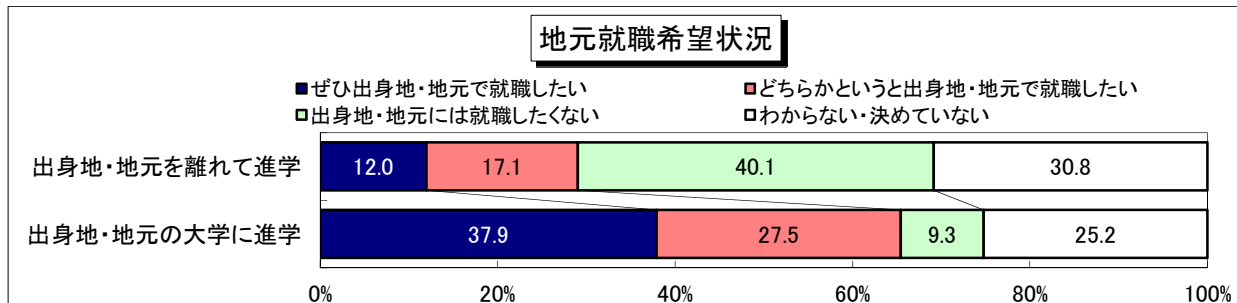
Uターン就職をしたいという人の理由を見ると、「出身地・地元が好き」が62.9%で最も多い。2番目の「出身地・地元に貢献したい」は52.6%で、前年調査(59.1%)より6.5ポイント下がった。前々年調査では最も高かったが(71.0%)、年々ポイントを下げ、ここ数年で最も低くなった(下表)。震災から4年が経過したことや就職環境が改善したことなどから、社会貢献・地域貢献への意識が薄れてきているのかもしれない。「親の近くで暮らしたい」44.8%、「出身地・地元」に友人・知人が多い」27.8%など、地元の間人関係を重視する項目がポイントを伸ばしている。



(%)

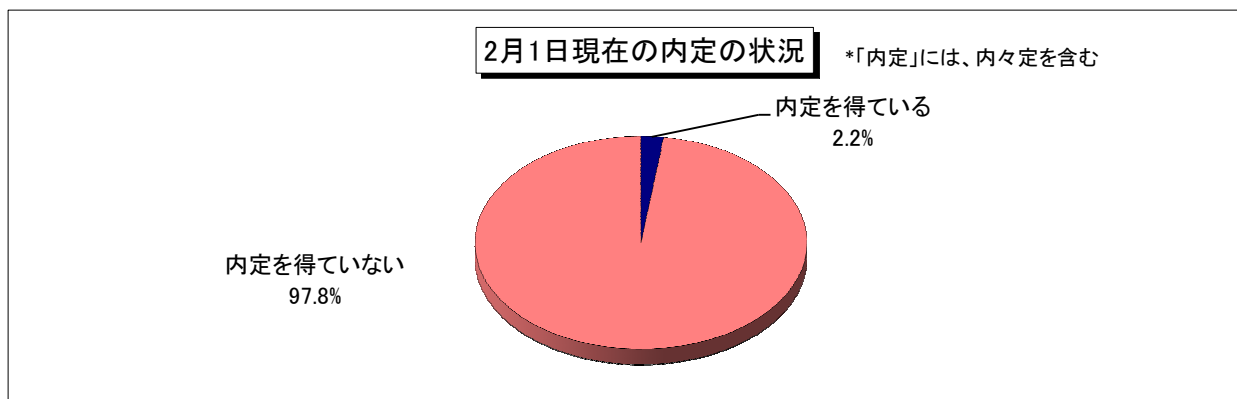
	2016年卒者	2015年卒者	2014年卒者	2013年卒者	2012年卒者	2011年卒者
出身地・地元で貢献したい	52.6	59.1	71.0	69.2	60.2	55.0

参考までに「出身地・地元を離れて進学」した学生と「出身地・地元の大学へ進学」した学生を比較した。前者は、今は離れているものの地元が好きで、地元で貢献したいと考える人が多い。一方、後者は、「親元を離れていたい」が 39.7%と高く、就職を機に親元を離れて生活したいと考えているのかもしれない。

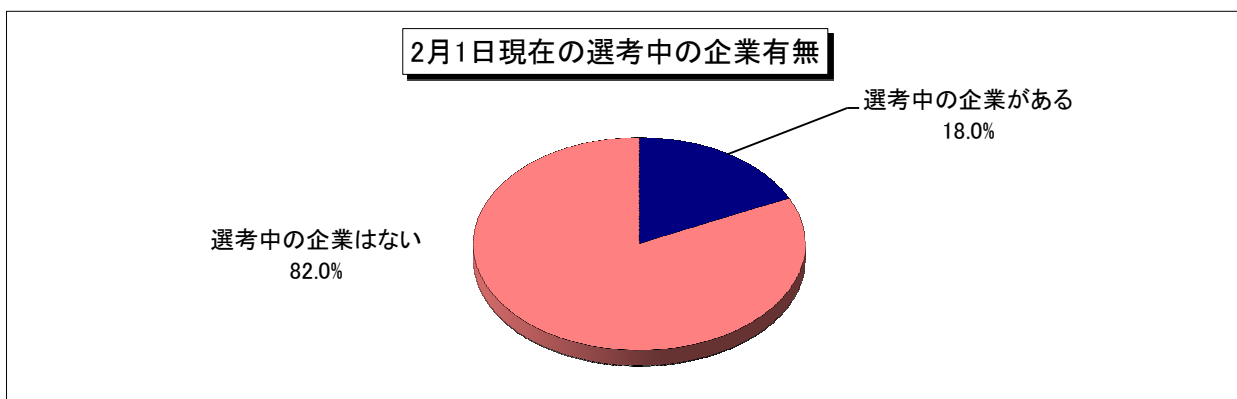


4. 現時点での内定状況

内定状況について尋ねたところ、「内定を得ている」との回答が 2.2%で、1 月調査から 0.5 ポイント増。割合はまだ小さいが、内定を手にする学生が少しずつ増えている。筆記試験や面接などの「選考中の企業がある」という学生は 18.0%で、1 月調査 (13.2%) から 4.8 ポイント増え、選考ベースにのっている学生が 2 割弱になった。選考中の企業数は平均して 1.8 社と、1 月調査 (1.6 社) より微増した。



	全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
内定を得ている	2.2%	2.2%	1.8%	2.8%	2.0%
内定を得ていない	97.8%	97.8%	98.2%	97.2%	98.0%
内定社数 (平均)	1.6社	2.3社	1.4社	1.2社	1.3社



	全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
選考中の企業がある	18.0%	20.4%	17.1%	13.7%	22.5%
選考中の企業はない	82.0%	79.6%	82.9%	86.3%	77.5%
選考企業社数 (平均)	1.8社	2.0社	1.5社	1.8社	1.8社

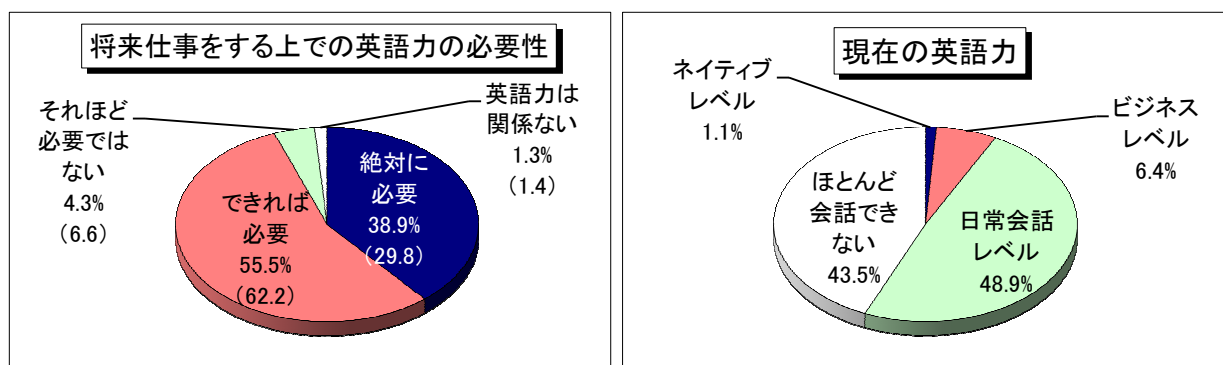
5. 英語力の必要性への考え

将来仕事をする上で英語力が必要と思うかどうかを尋ねたところ、「絶対に必要」と回答したのは 38.9%で、前年調査 (29.8%) より 9.1 ポイント増えた。一方、「できれば必要」は 55.5%と前年調査 (62.2%) より 6.7 ポイント下がった。「絶対に必要」「できれば必要」との回答を合算すると 94.4%になる。

現在の英語力を自己評価してもらったところ、「ほとんど会話できない」が 43.5%と 4 割以上を占めた。英語で会話できないが、英語力は必要と考える背景には、今回の就職活動スケジュール変更の狙いの 1 つである「留学等の促進」などが影響しているのではないだろうか。

海外経験については、「海外に行ったことはない」(37.2%) が前年調査 (38.2%) より微減。「海外インターンシップ」(3.1%) が前年調査 (2.6%) から増えたのが特徴的。例年の傾向ではあるが、男子より女子のほうが海外経験値は高い。

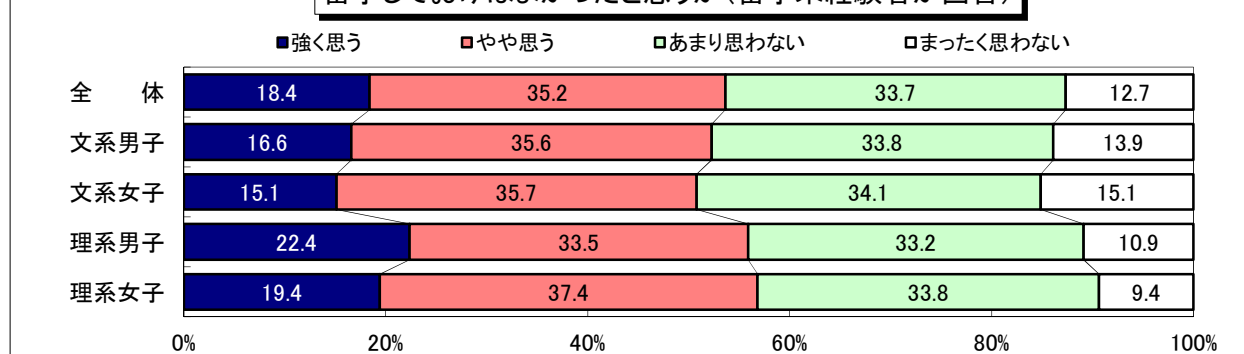
語学留学や交換留学などを含め「留学」を経験していない学生に対し、「留学しておけばよかったと思うか」を尋ねてみたが、「思う」53.6%、「思わない」46.4%と意見が分かれた。



海外経験

	全 体	(前年全体)	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
海外旅行	49.6	52.7	46.1	54.5	46.8	52.0
語学研修(語学留学)	17.2	17.9	15.2	29.0	7.4	14.0
ホームステイ	15.2	-	11.1	24.2	8.1	18.5
学術目的の海外研修(学会含む)	8.7	6.0	5.9	4.7	13.5	15.0
交換留学	4.1	3.6	4.8	5.8	0.8	5.0
海外ボランティア	3.6	-	3.3	6.7	1.3	2.0
海外インターンシップ	3.1	2.6	2.0	5.3	2.5	2.0
長期滞在生活(帰国子女など)	3.1	3.0	2.8	5.1	1.5	2.5
正規留学	1.2	0.2	1.3	1.8	1.0	0.0
その他	0.3	0.6	0.7	0.2	0.3	0.0
海外に行ったことはない	37.2	38.2	40.4	33.0	41.2	31.5

留学しておけばよかったと思うか(留学未経験者が回答)

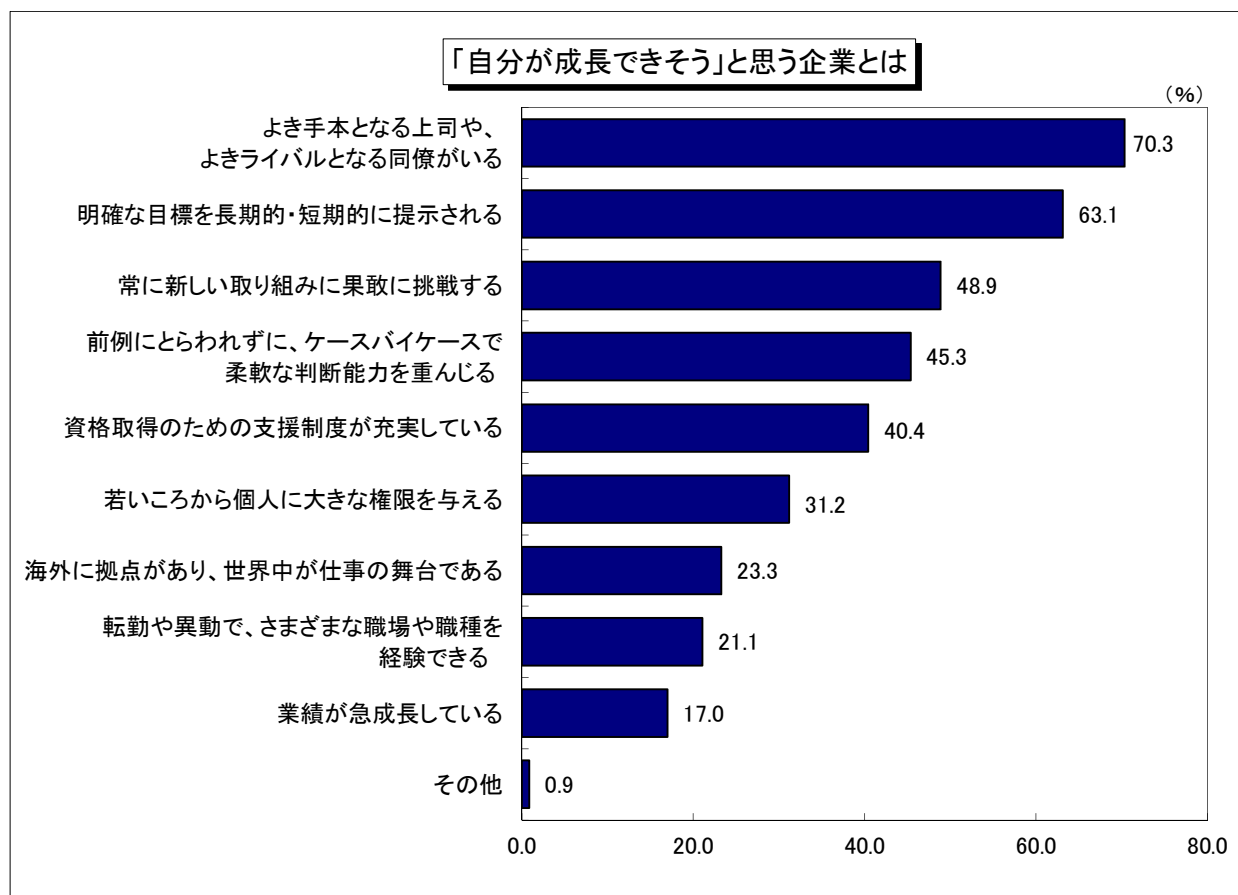


6. 「自分が成長できそう」と思う企業

学生が「自分が成長できそう」と思う企業はどんな企業かを尋ねた。最も多くが選んだのは「よき手本となる上司や、よきライバルとなる同僚がいる」(70.3%)。次いで「明確な目標を長期的・短期的に提示される」(63.1%)、「常に新しい取り組みに果敢に挑戦する」(48.9%)、「前例にとらわれずに、ケースバイケースで柔軟な判断能力を重んじる」(45.3%)、「資格取得のための支援制度が充実している」(40.4%)と続く。切磋琢磨できる環境で、明確な目標が設定され、新しいチャレンジができる企業を求める学生が多いと言える。

女子の方が高かった項目は「資格取得のための支援制度が充実している」。一方男子の方が高かったのは「若いころから個人に大きな権限を与えられる」だった。

なお、「業績が急成長している」(17.0%)は最も低く、企業の業績は自己の成長とリンクしないと捉えられているようだ。



(%)

	全 体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
よき手本となる上司や、よきライバルとなる同僚がいる	70.3	65.9	74.3	70.5	71.5
明確な目標を長期的・短期的に提示される	63.1	63.3	61.0	67.4	59.0
常に新しい取り組みに果敢に挑戦する	48.9	47.8	46.1	53.2	49.0
前例にとらわれずに、ケースバイケースで柔軟な判断能力を重んじる	45.3	43.5	49.0	41.7	48.5
資格取得のための支援制度が充実している	40.4	35.9	42.4	39.7	48.0
若いころから個人に大きな権限を与える	31.2	34.8	27.3	34.6	25.0
海外に拠点があり、世界中が仕事の舞台である	23.3	23.9	22.6	26.0	18.0
転勤や異動で、さまざまな職場や職種を経験できる	21.1	19.8	20.2	22.4	23.5
業績が急成長している	17.0	21.1	10.6	21.9	12.0
その他	0.9	1.1	0.9	0.8	0.5

■就職活動に関して思うこと

- 3月1日からいよいよ始まるということでわくわくしています。しかし、やはり徐々に焦りも出てきているのでしっかりと自分にできることを着実にしていき楽しんで就職活動を終え、社会に目を向けるきっかけになればいいと思います。後悔だけはしないように妥協はしません。
 <文系男子>
- 企業を見る目を養わないといけない。周りの就活生に流されずに、自分にとって幸せな選択肢は何かきちんと見極めないといけないと思った。
 <理系女子>
- 企業の説明会やセミナーに参加するうちに、段々と自分のやりたいことや就活における軸というものが決まってきた。そういう意味では、何をしたらいいかわからない時にはとりあえずセミナーに参加してみることが非常に大切だと実感した。
 <理系男子>
- 採用活動時期が企業によって異なるようなので、常にアンテナを張っておかなければ乗り遅れる恐れがあることと、面接日程によっては交通費がかさむことを考えています。
 <理系男子>
- 2016年度卒業予定の代から就職活動の時期が変わり、自分自身不安と焦りが大きく空回りしていると感じます。多くの選択肢の中から自分の将来を決めることは容易ではありませんが、着実に悔いのない就職活動を行いたいと考えています。
 <文系女子>
- 不安。もう2月ということに焦りを感じる。業界をどのように絞ればいいかわからない。やらなきゃとは思いますが、何から手をつければいいのか…。
 <文系男子>
- やる事が多くて大変だが、将来を決める重要な段階なので精一杯努力したい。
 <理系男子>
- 先日の学内説明会で3月からESとWEBテストを実施し4月から面接をやる企業が多いという説明を受けた。11月の段階ではそのような短期決戦になるという説明を受けておらず、多くの学生が困惑していた。今年の就活は去年からしっかりと準備してきた人にとそうではない人で大きく命運が分かれるであろうと思っている。
 <文系男子>
- インターンシップに行きたいと思っても授業がある平日に開催されることも多く、参加を断念することが多々ありました。ですが私の周りではインターンシップのために授業を欠席している人もおり、本末転倒なのではないかと感じています。
 <文系女子>
- 自分の行きたい業界、業種で自分が求められる、ないし必要とされるかどうかは少し違う基準なのかなど感じています。行きたいところにいけるわけではなく、一方で別の業界でなら優良企業から評価していただける、そのような世界だなあと感じています。
 <文系男子>
- 1月に参加した業界研究のイベントで、文系だから活躍できないと思いを向けてこなかった理系のメーカーの話を聞きにいきました。そこでの話はすごく新鮮で、自分にはない視点が増えてとても楽しかったです。興味の無い業界でも特徴や役割を「知る」ことがいかに大切かをその時に実感しました。業界を絞っていましたが、就職活動しかこんなにも社会のことを広く知る機会はないので、可能な限り様々な話を聞くつもりです。
 <文系女子>
- 研究との両立で不安な点がありますが、スケジュール管理をしっかり行い、計画的に就活をしていきたいと思っています。
 <理系男子>
- 就活に対する周りからのプレッシャーが凄まじいので、何かしらプレッシャーを軽減させる対策が欲しい。
 <文系女子>
- 不安だが、自分の中で軸（将来やりたいこと）が、明確に定まってきたので、後は努力するだけかなと思っている。
 <文系男子>
- 3月からの就活解禁が目前となり、自己分析・企業分析・ES対策を始めなければならないと思っている。しかし、企業側のスケジュールも企業により様々で、もうすでに採用を始めているという企業が増えてきたので、焦りを感じています。
 <文系女子>
- あと1カ月で解禁になるが、まだ志望業界を明確に定めておらず、早く決めた方がいいと思う気持ちとまだ見定めたいと思う気持ちがある。学外の友人たちは積極的にインターン(5日などの長期間)に参加しているが、自分は研究があり行けないので、遅れをとっていないか心配。
 <理系女子>